令和８年度小平市立小平第十三小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

国語全体の正答率は東京都の平均を 7.0 ポイント下回った。知識及び技能では「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低く、思考力・判断力・表現力では「書くこと」において正答率が低かった。

課題

文章全体の構成や展開を考えながら問題を解くことが苦手である。文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書くことについては４分の１以上の児童が無回答であり、作文力を高めることが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

自分と結び付ける発問を取り入れながら、「書く活動」を意図的に授業に組み込む。登場人物の心情や筆者の意図については、根拠を明確にして書かせていく。ペアやグループで書いたものを共有することで、「同じ」「違う」「付け加えたい」を意識させ、自分の考えを広げる工夫につなげる。語彙力や言葉の使い方についても、日々の授業や朝学習などを通して日常的に取り組んでいく。

【算数】

状況の分析

算数全体の正答率は東京都の平均を 9.0 ポイント下回った。特に、答えを導き出した理由を記述する問題で正答率が低かった。また、百分率を用いて割合を読み取ったり、基準量を求めたりする問題で無回答率が高かった。

課題

異分母の分数の大小を判断し、理由を記述する問題ではおよそ３割の児童が無回答であった。機械的な通分の知識だけでなく、通分が必要な理由を理解した上で、問題に適用させる力を身に付けさせたい。

学校で取り組む具体的な改善策

分数も百分率も日常生活で欠かせないものである。具体物や図、数直線などを活用して数量の関係を可視化し、「なぜその計算になるのか」を説明する活動を充実させる。学習者用端末を用いて視覚的に理解させることも効果的である。また、解き方を説明できるようにするため、ペア学習やグループ学習を生かす。多様な考えに触れるとともに自分の考えを言葉で伝えることを第１段階とし、第２段階では、文章や図などを使って記述できるよう発達段階に応じて指導する。

【質問紙】　　状況の分析

「学級をよりよくするために学級会で話し合えているか」の質問では、東京都の平均よりも 4.1 ポイント上回った。一方で、「自分の長所」、「夢や目標の有無」、「役に立つ人になりたいか」などに関する質問では、東京都と比べて肯定的な割合が少なかった。学習に関する質問では「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」において東京都の割合より肯定的な回答が少なかった。

課題

自分のよいところを理解し自信をもったり、夢や目標をもったりしながら、日々の生活を意欲的に送れるようにしたい。学習においては、自分で学び方を考え、工夫することができないと感じている児童の多いことが勉強嫌いにつながっていると考えられる。楽しく学びながら、力のつく授業の在り方や進め方についても検討していく。

学校で取り組む具体的な改善策

行事や学級活動を通して「自分は学級や学校の役に立っている」「自分の考えが認められた」「努力すれば自分を変えることができる」という実感を積み重ねられるようにする。できなかった自分ではなく、変化した自分に気付かせるために行事等の後には振り返りを行い、自尊感情を高めていく。

ペアや小グループなど学習形態を工夫したり、児童が学習したい題材を自ら選択できる学習を進めたりすることで、児童が自ら計画を立て、実行する姿勢を授業の中で育てていく。また、学習者用端末を活用し、授業内で画像や動画、音声等を利用することで学習内容がより理解できるよう指導の工夫を図る。